

# 日本MAB計画の課題と展望

松田裕之 (Yokohama Nat'l Univ.)

 日本MAB計画委員会  
UNESCO's Man and the Biosphere Programme

このサイトのお問合せ先はこちらです  
TEL 045-339-4361

ホーム  
Home

MAB計画とは  
about MAB

組織  
organization

ユネスコエコパーク  
Biosphere Reserve

MAB計画事業  
project

リンク  
links

English  
english site



<http://mab.main.jp/english/>

Symposium at Shiga Highland BR 2011



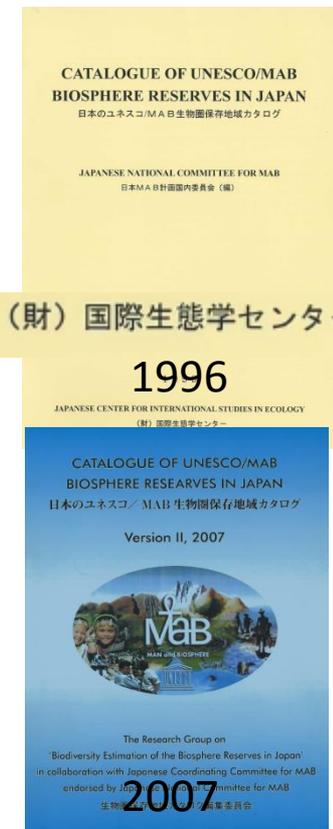
# 吉田ら『世界遺産を問い直す』

- 世界遺産は危機に瀕している(184頁)。
- 自然遺産“人と自然の相互作用”の価値喪失
- 保護区で人と自然の関係の価値を取り戻す
- 1977年作業指針 (ii)「進行中の地質学的、生物学的過程，人と自然の相互関係」
- 1992年基準「人と自然の相互関係」が文化遺産の「文化的景観」の基準に統一
- IUCN文書1971年 自然遺産は「人によって改変された地域も含む」(28頁)。

# Japanese MAB dormant age

## 日本MABの休眠

- Aruga (InfoMAB<sup>No.41</sup>), Monji<sup>1</sup>, Takai<sup>1</sup>
- 1970: Japan became a MAB-ICC member  
日本がMAB国際調整理事会理事国に
- 1980: 4BR designated (paper parks)  
4つの生物圏保存地域(エコパーク)登録
- 1987: Japan InfoMAB established (JCC)  
Japan InfoMAB創刊
- 2005~2009.5 JMC\* not held<sup>34</sup>, members expired  
MAB国内委員会未開催, 委員任期切れ
- Periodic reviews of 4BR in 1998 & 2007 by JCC  
scientists, granted from JSPS  
4BRの「定期報告」を科研費報告書により提出



\*JMC = Japanese National MAB Committee (or formerly focal point)

# 世界遺産、ジオパークとの比較

## 生物圏保存地域

3つの機能の相互促進を目的とした3つの地域区分を有する地区(サイト)

①次の3つの機能を有する。

(1)保全機能、(2)学術的支援、(3)経済と社会の発展

②次の3つの地域区分を有する。核心地域、緩衝地域、移行地域

③生物圏保存地域の保存管理や運営、上記3機能の実施に関する計画を有していること。

④生物圏保存地域の管理方針又は計画の作成及びその実行のための組織体制が整っていること。また、組織体制は、自治体を中心に当該地域に関わる幅広い主体が参画していること。

⑤ユネスコ世界BRネットワークへの参画

## 世界自然遺産

顕著な普遍的価値(OUV)を保有する地域

①次の4つの登録基準(クライテリア)の1つ以上に合致する。自然美、地形・地質、生態系、生物多様性

②完全性を満たす。

③必要な保護管理上の要件を満たす。

## UGジオパーク

地形、地質学的遺産を有する地域について、次の①～⑥の基準が、一定の程度以上満たされていること。

①規模と環境

②運営及び地域との関わり

③経済開発

④教育

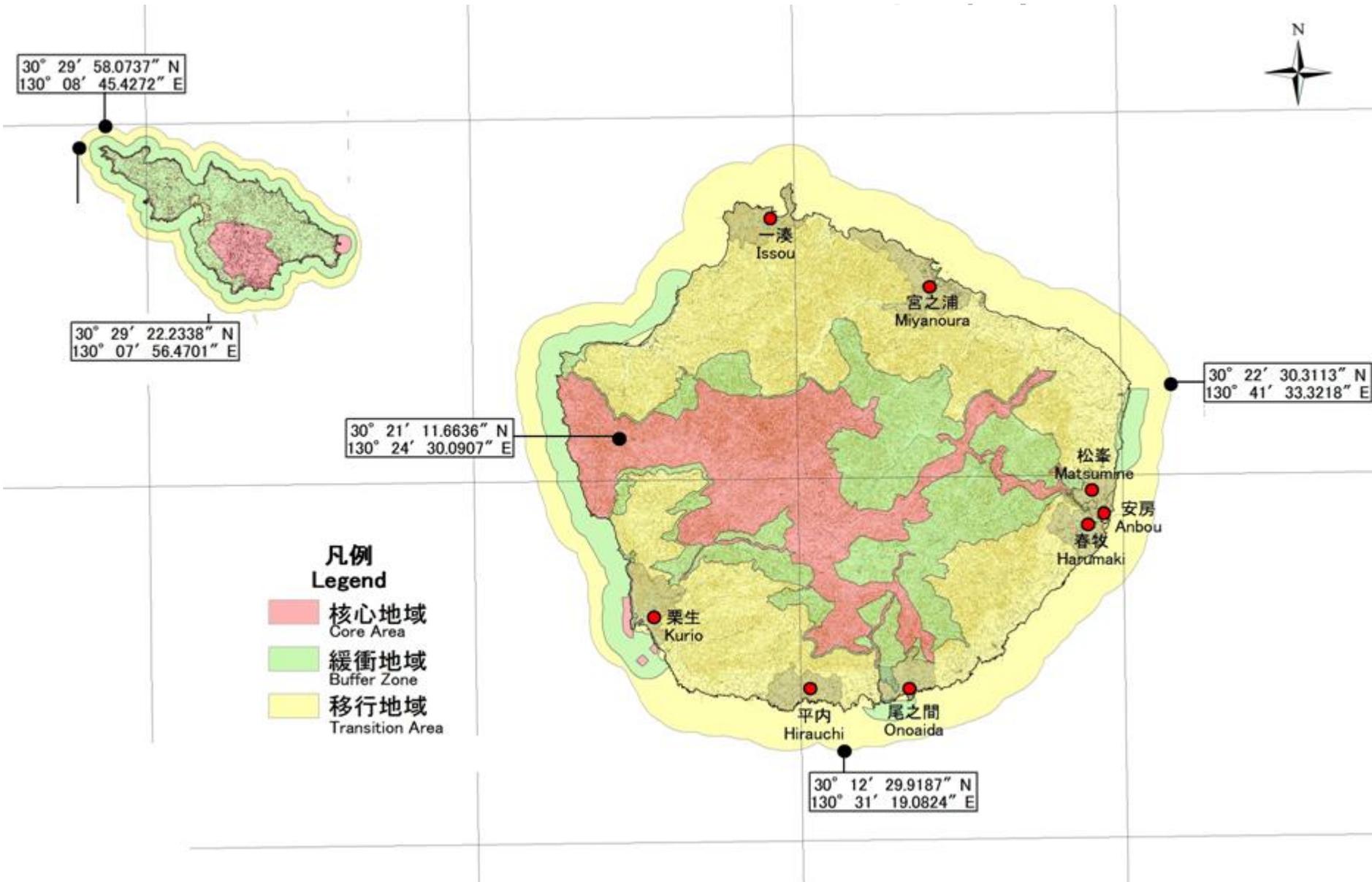
⑤保護と保存

⑥世界ジオパークネットワークへの貢献



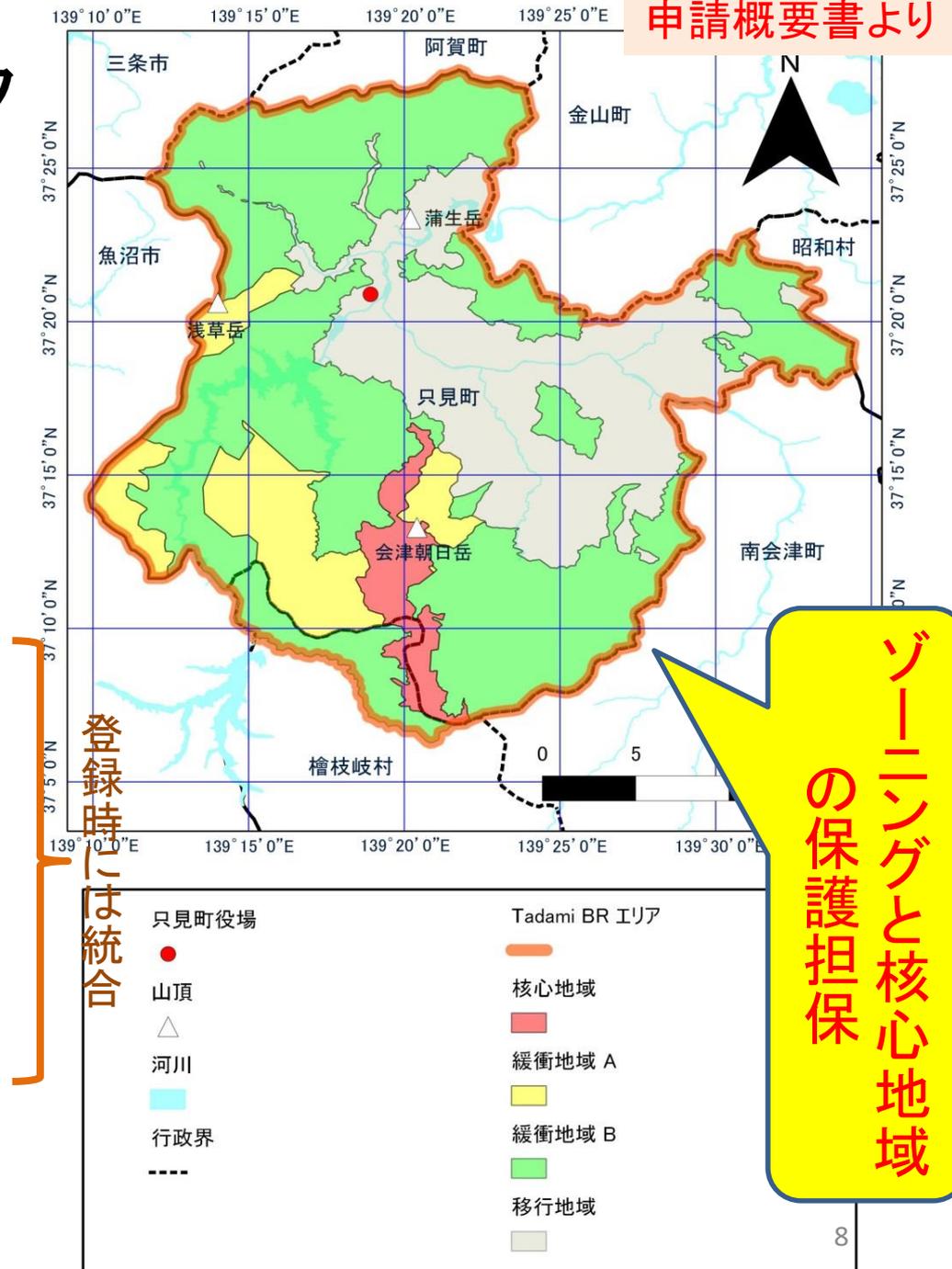


# 図2 屋久島・口永良部島ユネスコエコパーク



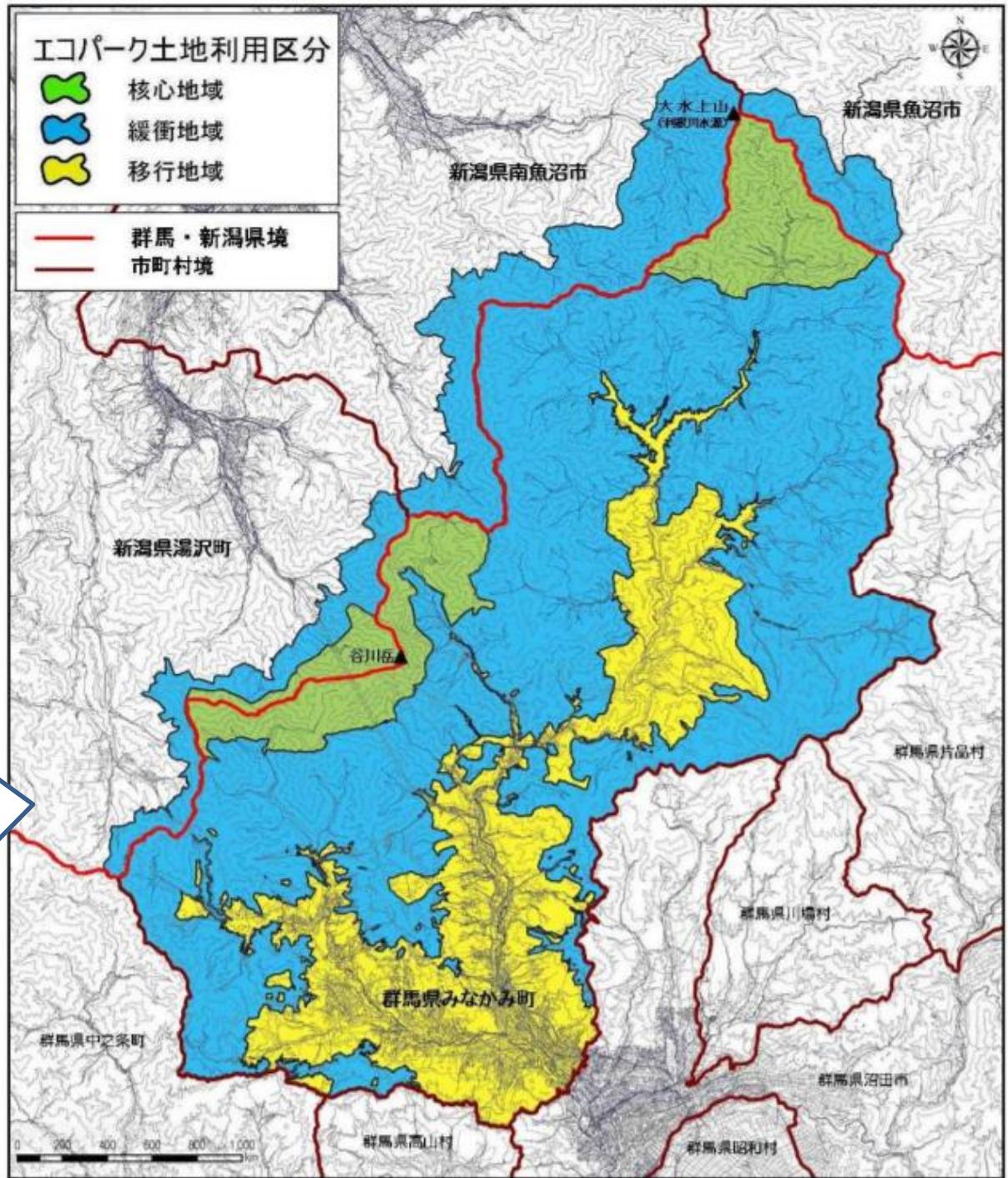
# 只見ユネスコエコパーク

BR範囲	・只見町全域および隣接する檜枝岐村の一部。
核心地域	・森林生態系保護地域の「保存地区」 (重複する越後三山只見国定公園の「特別保護地区」と特別地域)の一部を含む)
緩衝地域 A	・越後三山只見国定公園の「特別保護地区」 (重複する森林生態系保護地域の「保全利用地区」の一部を含む)
緩衝地域 B	・核心地域、緩衝地域A以外の国有林 ・核心地域に隣接する「町有林」「財産区有林」
移行地域	・核心地域、緩衝地域以外の山林原野、農耕地、住居地



# みなかみBR

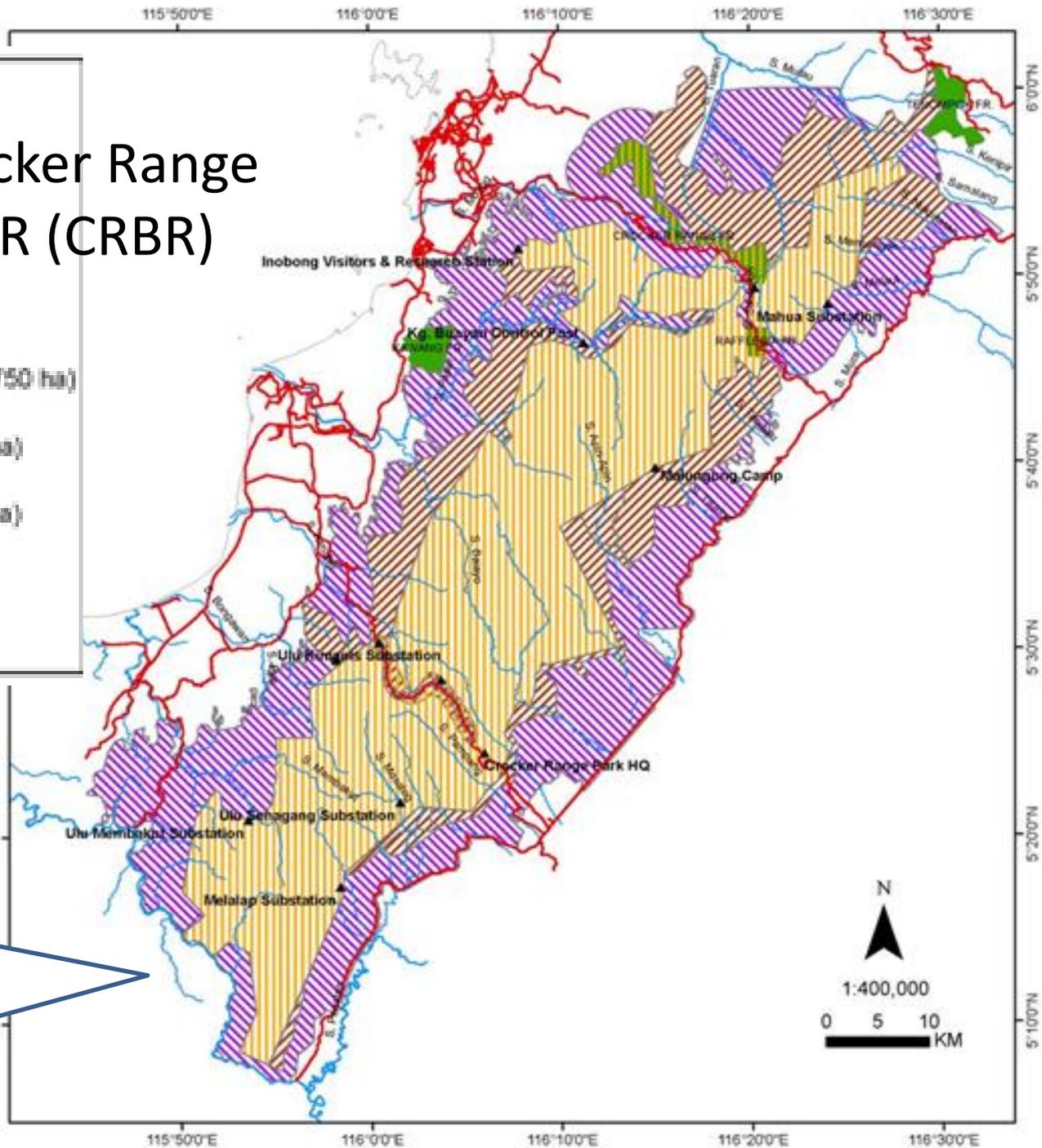
移行地域も緩衝地域に覆われていない。これは山間地ではふつうのことかもしれない



# Legend

-  CRP Station
-  Road
-  River
-  Potential Transition Area (117750 ha)
-  Potential Core Area (144312 ha)
-  Potential Buffer Area (51405 ha)
-  Forest Reserve

## Crocker Range BR (CRBR)



先住民は核  
心内の緩衝  
(CUZ)に住ん  
でいる

# MAB Ecotone と SeaBRnet -日本の大きな貢献

**GUIDEBOOK**

**Integrated Ecosystem Management - Pursuing a Quality Economy in Biosphere Reserves**

Proceedings of the 2nd Workshop of Ecotone Phase II and the 4th Meeting of Southeast Asian Biosphere Reserve Network (SeaBRnet)

Champasak Palace, Pakse District, Champasak Province, Lao PDR  
3 - 7 October 2005

Organized by:  
Science, Technology and Environment Agency (STEA), Prime Minister's Office  
Lao PDR National Commission for UNESCO  
UNESCO  
with Support from The Government of Japan

**EAST ASIAN ECOTONES**  
01: A Collaborative MAB Programme

Principal Arifin  
Samedi  
Soemodihardjo

**SPACO**  
Co-operation for the Use of Renewable Natural Resources in Biosphere Reserves by Managed Areas

"Nature Conservation and Sustainable Use of Mangroves Forest"

Being conditions of life by harmonizing the between nature with the needs for the use of natural resources by integrated examples practice in coastal zones and with particular development.

Government of Japan  
MAB  
UNESCO

# Why did Japanese MAB revive? 復活の理由

1. CBD/COP10 event was held in 10/2010.  
生物多様性条約名古屋会議で文科省主催副行事
2. Aya BR was submitted in 2012. 綾BRの新規申請
3. Madrid Action Plan forced all BRs to establish transition areas and management plans by 2015.  
全BRに2015年迄に移行地域と管理計画策定要請
4. We use “UNESCO Ecopark” as nickname of BRs.  
国内で「ユネスコエコパーク」という通称を決定
5. WH experts respect BR scheme; BR encourages living harmony with nature. (Shiretoko)  
世界遺産関係者がBR制度を評価。人と自然の共生に合致
6. Integrated Local Env. Knowledge Project strongly support JCC.  
地球研「地域環境知」事業がMAB計画を旅費等支援
7. We organized Jpn BR Network (JBRN) since 2010.  
日本ユネスコエコパークネットワークを組織

# 1. Application of UNESCO's Man and the Biosphere Programme as an international institution to harmony between utilization and conservation

At Annual Meeting for Ecological Society of Japan

March 17, 2010, Univ. Tokyo

- Matsuda H, Sakai A (YNU)
- Ohsawa M (NACS-J) MAB-BR: A conservation framework of SATOYAMA
- Han Q (UNESCO) Development of the Man and the Biosphere (MAB) Programme in Asia - main achievements and lessons learnt
- Hong S-K (Mokpo U) Living harmoniously with man and nature systems in Shinan Dadohae BR
- Comment: MoEJ, MEXT, JMC



Visit Aya

# History of Japanese BRs Network (2010-)

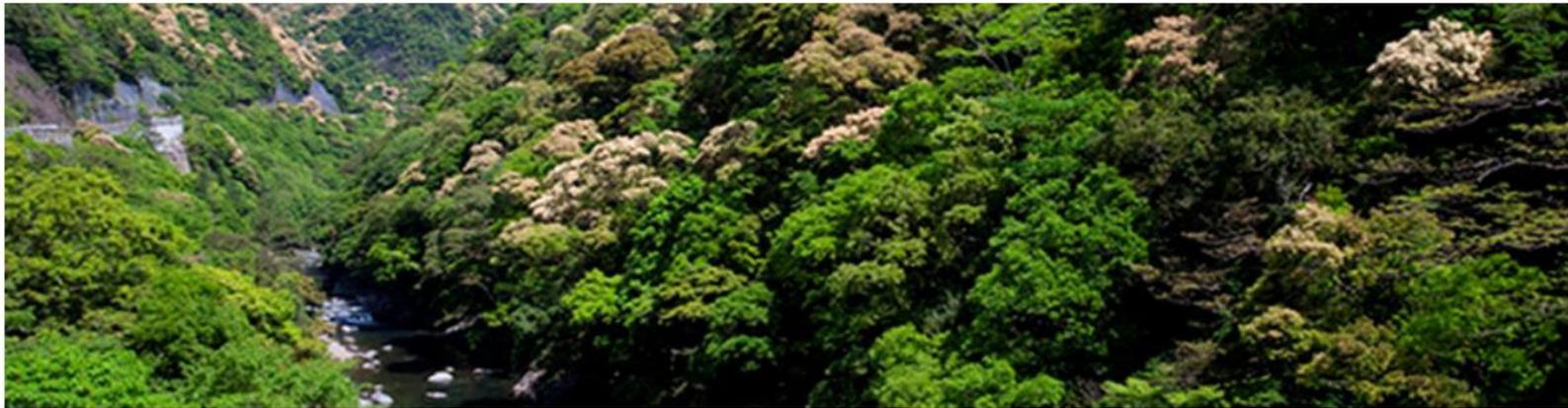
- 2010 J-BRNet メールリストとして組織（計画委員会主導）
- 2012 J-BRNet規約制定
- 2012綾BR登録（日本で32年ぶり）
- 2013 只見BR推薦地で第1回JBRN会議
- 2014 只見BR、南アルプスBR登録
- 2014 白山市で第2回JBRN会議
- 2015 滋賀高原で第3回JBRN会議
  - EABRNとの合同セッション
  - JBRN定款変更（登録地自治体主導に転換）

# JBRNサイトhttp://jbrn.main.jp/を作ったが

日本ユネスコエコパークネットワークのサイトです

## 日本ユネスコエコパークネットワーク

[TOP](#) [ユネスコエコパークネットワーク \(JBRN\) とは](#) [日本のユネスコエコパーク](#) [活動内容](#) [新着情報](#) [お問い合わせ](#) [English](#)



### 日本ユネスコエコパークネットワーク (JBRN) とは

### 更新情報

### 活動内容

### 新着情報

コパーク)とは、各国の政府が推薦し、ユネ  
、海洋の生態系に設けられた保護区です。

### これからの活動

### 日本ユネスコエコパークネットワークフォーラムの開催中止のお知らせ

2018年9月27日 [お知らせ](#)

10月2日(火)に予定しておりました日本ユネスコエコパークネットワークフォーラムですが、台風24号が勢力を維持したまま九州地方に接近するとの予報をうけて、止む無く中止させていただくことになりましたので、お知らせいたしま…

### 活動内容

[過去の活動](#)

[この記事を読む](#)

# 持続発展教育(ESD)とユネスコ人間と生物圏(MAB)計画における我が国の取組に関するシンポジウム

生物多様性条約COP10副行事 2010年10月26日

主催: 文部科学省、日本ユネスコ国内委員会

共催: 日本MAB計画委, ESD-J、国連大学高等研究所、環境省

後援: 林野庁、日本生態学会、横浜国立大学

13:15 開会挨拶 藤嶋信夫(文部科学省)

13:20 基調講演(1) アナ・パーシク(ユネスコ) 生物圏保存地域-持続可能な発展を学ぶための世界のネットワーク

13:35 基調講演(2) 鈴木克徳(金沢大学・国連大学・ESD-J)  
MABプログラムを活用したESDの推進

13:50 パネル討論 日本のMAB、ESDの相互連携と発展の展望  
松田裕之、アナ・パーシク、鈴木克徳、洪善基、高野孝子

この行事は文部科学省ユネスコパートナーシップ事業の支援を受けた

# 第1回

只見



- 10月 25-26, 2013
- 36人参加

Original slide from 中村真介氏



## 2<sup>nd</sup> Meeting

- 11月27-28, 2014
- 白山市
- 61人参加



Original slide from 中村真介氏

# Reorganization of JBRN since 2015

## 日本BRネットワークの再編

- 個人でなく自治体単位
- (10万円/年)会費制
- 正会員, Research member, 研究会員
- 省庁と研究者は傍聴者
- 計画委員会の助言
- 事務局はBR輪番制
- 顔合わせの会合

# 3<sup>rd</sup> Meeting



- 10月6-8日,2015
- 志賀高原
- 70人参加



Original slide from 中村真介氏

# EABRN 会議in 志賀高原2015



Yakushima



Aya



Mt. Hakusan

- EABRN and JBRN 合同セッション
- 主に研究者と政府代表
- 日本の各BR実務者（自治体職員）からの発表
- 地域主導の重要性を強調



Original slide from 中村真介氏

# 日本ユネスコエコパークネットワークとの連携協定

- 「生態系の保護・保全のみならず自然と人間社会の共生に重点を置く」というユネスコエコパークの理念にイオン環境財団が賛同し連携協定を締結
- 協定期間 5年間
- 連携事項
  1. 生物多様性の保全
  2. 持続可能な資源利用と発展
  3. ユネスコエコパークを利用した環境教育
  4. ユネスコエコパークの価値と知見の啓蒙



# 日本のBRの2つのタイプ

(Tanaka & Wakamatsu 2018)

## • 単独自治体型

- 屋久島・口永良部島、綾、只見、みなかみ
- 多様な関与者を含む管理主体
- BR登録は通過段階

## • 複数自治体型

- 白山,大台ヶ原・大峯山・大杉谷、南アルプス、祖母・傾・大崩
- 管理機関は参加自治体で構成
- BR登録は自治体連携の出発点

# 日本のユネスコエコパーク

数字は登録年、カッコ数字はエリア拡張年



白山  
(石川・福井・富山・岐阜)  
1980(2016)



祖母・傾・大崩  
(大分・宮崎) 2017



綾 (宮崎)  
2012



屋久島・口永良部島  
(鹿児島) 1980(2016)



只見 (福島)  
2014



みなかみ  
(群馬・新潟)  
2017



志賀高原  
(長野・群馬)  
1980(2014)



南アルプス  
(山梨・長野・静岡) 2014



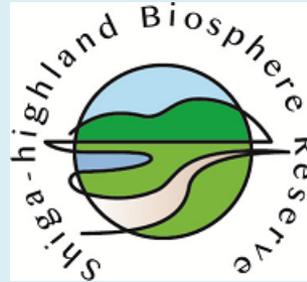
大台ヶ原・大峯山・大杉谷  
(奈良・三重) 1980(2016)



# 日本のBRのロゴ



Aya 2012



Shiga Highland  
1980/2014



日本ユネスコ  
エコパーク  
ネットワーク  
Japanese  
Biosphere Reserves  
Network

JBRN logo established in 2015



Tadami 2014



Minami Alps 2014



2017



2017



Mt. Odaigahara, Mt. Omine  
and Osugidani 1980/2014



Mt. Hakusan  
1980/2014

ロゴ未定

Yakushima and  
Kuchinoerabu Jima  
1980/2014  
or Yakushima WH

# 島嶼BRを重視するユネスコ



2012.2 第1回WNIBR会議(スペイン・メノルカ島)  
松田が招かれ、屋久島の紹介



2012.9 第2回WNIBR会議(韓国濟州島)  
手塚氏が招かれ、屋久島の紹介



2013.8 第3回WNIBR会議(西エストニア)  
岡野氏が招かれ、屋久島の紹介

## Third meeting of the Global Network of Island and Coastal Biosphere Reserves



© UNESCO/Alison Clayton  
Galapagos: sea lion couple relaxing

This is the third meeting of the Global Network of Island and Coastal Biosphere Reserves which was created at the 21st Session of the International Coordinating Council of the Man and the Biosphere Programme (MAB-ICC) in 2009 that was held in Jeju (Republic of Korea). The Global Network of Island and Coastal Biosphere Reserves aims to realize the potential of biosphere reserves in addressing climate change, particularly as places for learning about sustainable development and also for experimenting on mitigation and adaptation measures on climate change. The first meeting of the Global Network of Island and Coastal Biosphere Reserves was held in Menorca, Spain, from 13 to 15 February 2012 and the second meeting was held on Jeju Island, Republic of Korea from 12 to 13 September 2012. This is the third meeting of the Network.

West-Estonian Archipelago Biosphere Reserve, Estonia

# Future mission of JCC計画委員会の将来方針

- 各BRへの助言（申請書等）
- 地域研究者の組織化
- 国内委員会支援
- 世界遺産，ジオパーク，農業遺産との協同
- 科学知と地域知の協同の推進
- 科学者ネットワークを外国に勧める
- シカ管理？

Mt Odaigahara, Omine BR

Photo by  
Prof. Suganuma



「ユネスコエコパークー持続可能な地域社会のモデルとしての自然保護区」(仮題)京都大学出版会2019年3月  
松田裕之・佐藤哲・湯本貴和 (eds.) Kyoto Univ. Press

1. 世界遺産とはどこが違うのか？ (松田)
2. ネスコエコパークの理念の変遷と日本のかかわり(岡野隆宏)
3. 生物圏保存地域の世界での活用事例(比嘉基紀ら)
  - ー レッドベリー・レイク(カナダ)ー住民による手づくりの生物圏保存地域ー(北村健二)
4. 日本におけるMAB計画の復活(松田)
5. 日本ユネスコエコパークネットワークの誕生(中村真介)
6. ネットワークを統御する: 共通経費と取引費用(田中俊徳)
7. 複数の自治体に跨るユネスコエコパークの実情(若松伸彦ら)
8. 地域資源の内発的な再評価とブランドの構築(大元鈴子)
  - ー 綾町ー半世紀前に従来型の開発と決別した綾町の取り組み(朱宮ら)
  - ー 白山ー協議会による管理運営ー(中村真介)
9. 全国のシカ問題をユネスコエコパークから考える(湯本貴和ら)
10. 終章(佐藤哲)

## 日本MAB計画委員会

### 名簿 (敬称略、任期2017年1月～2018年12月\*) 議事要旨等

- ・ 委員長 [松田裕之](#) 横浜国立大学大学院環境情報研究院 教授
- ・ 副委員長 [酒井暁子](#) 横浜国立大学大学院環境情報研究院 教授
- ・ 委員 [井田秀行](#) 信州大学教育学部准教授
- ・ 委員 [崎尾 均](#) 新潟大学佐渡演習林教授
- ・ 委員 [朱宮文晴](#) 日本自然保護協会保全研究部長
- ・ 委員 [鈴木和次郎](#) 只見ユネスコエコパーク推進専門監
- ・ 委員 [田中俊徳](#) 東京大学大学院新領域創成科学研究科 准教授
- ・ 委員 [辻野 亮](#) 奈良教育大学 准教授
- ・ 委員 [土屋俊幸](#) 東京農工大学大学院農学研究院 教授
- ・ 委員 [中村浩二](#) 金沢大学地域連携推進センター 特任教授
- ・ 委員 [西脇亜也](#) 宮崎大学農学部 教授
- ・ 委員 [増沢武弘](#) 静岡大学理学部 特任教授
- ・ 委員 [松井 淳](#) 奈良教育大学 教授
- ・ 委員 [水谷瑞希](#) 信州大学教育学部 助教
- ・ 委員 [湯本貴和](#) 京都大学霊長類研究所 教授
- ・ 委員 [吉田正人](#) 筑波大学大学院人間総合科学研究科 教授
- ・ 委員 [若松伸彦](#) 横浜国立大学 産官学連携研究員
- ・ 委員 [渋谷晃太郎](#) 岩手県立大学総合政策学部 教授(\*任期2017.12-2018.12)
- ・ 委員 [比嘉基紀](#) 高知大学理工学部 講師(\*任期2018.10-2018.12)

主な活動

日本MAB計画委員会規約

このサイトのお問合せ先はこちらです

**TEL 045-339-4361**